

第13回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(オンライン大会)の報告

1. はじめに

8月16日(日)、第13回全国高等学校情報教育研究会全国大会(オンライン大会)が開催された。本来、愛知大会として、8月20日・21日に愛知県立大学で実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3月末に愛知大会の中止がアナウンスされ、今年度はオンライン大会として開催された。本大会は、全国から325名(主催者発表)の参加があった。

2. 大会概要

【日時】 8月16日(日) 13:30～16:30

【大会 URL】 <https://www.zenkojoken.jp/category/13online/>

【プログラム】

13:00～ 全国高等学校情報教育研究会総会

13:30～ 開会行事

13:45～ 基調講演

「新しい情報科に向けて準備をしよう」

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

研究開発部研究開発課 教育課程調査官

鹿野 利春氏

14:55～ 分科会1 (それぞれ3会場、計6件の

15:30～ 分科会2 ライブによる口頭発表)

16:15～ 閉会行事

3. 大会の様子

(1) 大会前のライトニングトーク動画の公開

大会ホームページでは、大会前に鹿野利春調査官から講演についてのライトニングトーク動画が公開された。分科会発表についても、参加者への連絡ページでライトニングトーク動画が公開された。

(2) 基調講演

開会行事の後、鹿野利春調査官による基調講演が行われた。講演の冒頭で、「2022年からスタートす

る「情報I」について、2021年には教科書を選ばなくてはならない。何のために学んでいくのか、どのようなことに気をつけたら良いか、準備はどのようにするか、小中学校はどうなっているか、などについて話をしていきたい。」と話された。

まず、Society5.0時代では課題解決・価値創造が重要になること、自動化・自律化による社会構造の変化への対応等を例に挙げ、「求められる人材像は大きく変わり、自ら課題を見つけ、AIなどを活用してそれを解決できる人材が必要となる。」と説明された。次に、「当面の課題として、教科書採択に向けてしなければならないことをリストアップして、自己研修の計画を立ててみよう。」と話された後、「情報I」の内容と準備すべきもの、「情報I」の構造や授業の進め方について具体例を挙げながら話され、さらに大学入試や小中学校で学んでいることについても例を挙げて話された。

(3) 分科会

分科会はライブによる口頭発表で、分科会1・分科会2の時間帯に、それぞれ3会場(オンライン会議室)が用意され、6件の発表があった。発表は質疑応答を含めて30分で、参加者はそれぞれの会場を選んで参加、質問はチャットで行った。また、オンラインでの発表数には限りがあるため、オンデマンドによる動画発表(YouTubeによる配信)としての参加も17件あった。

4. おわりに

今回の第14回大会は、大阪の地で開催される予定となっている。オンライン大会にも良い面はあるが、大会期間中に多くの先生方と顔をあわせて情報交換をすることは大変貴重な機会である。来年は是非リアルでの開催が可能となるように期待したい。